



天上はるかに

秋高東京同窓会会報

題字 布田祐五郎様

2013 年 5 月 新緑号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032 港区六本木 5-16-5
 インパリアル六本木 1001 鎌田会計事務所内
 TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
 URL <http://www.shuko-ob.net/>

特集
ご参加を

7月6日(土) 14時30分～ ハイアットリージェンシー東京

へばあ 秋田高校創立140周年 東京同窓会の集い け!

140 年の歴史。見守り続けた太平山。あの時代、あの青春を今一度、現在に結びつけ「汝 何の為に其処に在り也」(1967 年離任演説、鈴木健次郎校長)と……。

ここに〈秋高 140 年東京の集い〉を呼びかけます。各年次、クラブ、友好他校のみなさん。どうぞわいわい、かつ重く、楽しく……。

ご参加をお願いいたします。

当日ネット同時中継あり
 秋田高校東京同窓会 **検索**

秋田高校東京同窓会会長 橋本五郎
 創立 140 周年東京同窓会の集い実行委員長 二木 猛

記念シンポジウム

『私の秋高時代、あの時代…。そしてこれから』



コーディネーター
 橋本五郎 (東京同窓会会長
 ・ジャーナリスト)



パネリスト
 明石康さん (元国連事務次長・S25 年卒)



パネリスト
 西木正明さん (直木賞作家・S34 年卒)



パネリスト
 石川真紀さん (文化放送アナウンサー・H5 年卒)



パネリスト
 土井英司さん (日本を代表するビジネス書評家・H5 年卒)

秋田高校創立 140 周年・東京同窓会の集い

秋田高等学校創立 1873 年(明治 6 年) 9 月 1 日、創立 140 年
 同窓生数 37,625 人 (2013 年 4 月現在)、在籍生徒数 860 人 (2013 年 4 月現在)

★ 2013 年 7 月 6 日 (土) 14 時 30 分開会～

★ハイアットリージェンシー東京 (東京都庁横)

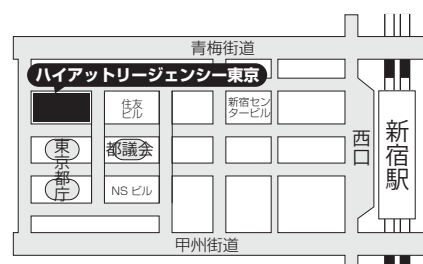
★記念シンポ、アトラクション、懇親会

OB 著作プレゼント付 会費 8000 円

第 29 回国民文化祭
 ・2014 あきた
 応援事業



2014 年 10 月 4 日～11 月 3 日



〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-7-2
 TEL 03-3348-1234 FAX 03-3344-5575

【I】 記念シンポジウム (90 分)

『私の秋高時代、あの時代……そしてこれから』

パネラー 明石康さん (S25 年卒)、西木正明さん (S34 年卒)、石川真紀さん (H5 年卒)・土井英司さん (H5 年卒)

コーディネーター 橋本五郎・東京同窓会会長 (S40 年卒)

【II】 アトラクション (120 分)

メッセージ

高橋貢学校長、豊口祐一本部同窓会会長、
他校ゲスト 小野清子さん (秋田北高)、
三浦清さん (秋田商業) など

各期・部パフォーマンス

ジャズバンド・菊地康正さん (S47 年卒)

S30 年卒、S36 年卒、S39 年卒、S42 年卒、H16 年卒、野球部
矢留会、ラグビー部 OB 会など予定。もちろん応援歌、校友歌、
全員での校歌、エールも。

豪華プレゼント

秋高 OB 各界人の著作本、サイン入りなど
プレゼントを全員に……。もしかしてあのグッズも……。

秋田県立
秋田高等学校校歌
大正十一年七月十五日
作詞 土井晩翠
作曲 祭田 貞
天に上るかに太平洋の
姿はけしき三千余尺
長江流れて六十幾里
海に馳せ行く雄物川波

当日の演奏曲は、スタンダードナンバーのダニーボーイ、アイルランドでは葬送の曲でも有ります。今回の震災の復興にもこの曲が届けばとの思いで演奏いたします。



さらに数曲演奏する予定です。
メンバーは、作詞家で歌手である稲里ひろみ、ピアノの出口誠、ラテンパーカッションの今福健司、そして私の弟子である熊川暢子のサクソスで、お届けする予定です。
<http://kose-sax-flute.jp/>

S47 卒 菊地康正

秋田県立秋田高等学校 沿革

(1873 年) 9 月 1 日 秋田市東根小屋町日新学校内に洋学科を増設、洋学校
明治 6 年 と称する。これが本校の濫觴である。
(1874 年) 5 月 22 日 洋学校は伝習学校 (明治 6 年 10 月 1 日開設の師範学校の前身) と統合して太平学校と改称し、校舎を秋田市東根小屋町旧藩校明德館跡に新築、中学校 (洋学校の改称) 伝習科を併置。
(1876 年) 9 月 中学科を変則中学科と改称。
(1878 年) 3 月 校舎の新築成り、太平学校を秋田県師範学校と改称。変則中学科を中学師範予備科と改称。
(1878 年) 4 月 12 日 秋田県師範学校開校式。
(1882 年) 7 月 1 日 中学師範予備科を廃して秋田中学校と改称して独立。
(1882 年) 9 月 1 日 秋田中学校開校。初等、高等の 2 科に分け、初等在学 4 年として高等は 2 年を増設。
(1886 年) 8 月 7 日 秋田尋常中学校と改称、秋田市西根小屋町秋田県師範学校女子教員養成部に移転。
(1888 年) 4 月 秋田市東根小屋町秋田医学校に移転。校地内に農業試験場を設置。
(1892 年) 4 月 1 日 校友会を創設。
(1893 年) 1 月 本校校章を三剣菱章に改訂。また帽子も従来のドイツ型をフランス型に改定。
(1893 年) 4 月 農業専修科を市外寺内村八橋 (元第一勸業場、土地建物全部本校所有となる) に設置。
(1895 年) 4 月 1 日 農業専修科が独立。秋田県簡易農学校 (秋田県立大曲農業高等学校の前身) 創立。
(1898 年) 4 月 1 日 横手、大館に 2 中学校が増設されたため、本校の名称を秋田県第一尋常中学校と改称。
(1899 年) 4 月 1 日 秋田県第一中学校と改称。
(1900 年) 11 月 23 日 艇庫の新築成り、開艇庫式を挙げる。(南秋田郡川尻村字石倉向 17 番地 敷地 7 畝 15 歩に建築)
(1901 年) 7 月 秋田県立秋田中学校と改称。

(1915 年) **大正 4 年** 8 月 22 日 同窓会を創設。
(1916 年) 2 月 15 日 「校旗」制定式。
(1922 年) 7 月 15 日 「校歌」を制定。
(1922 年) 9 月 1 日 創立 50 周年式典を挙げる。
(1925 年) 12 月 1 日 本校に夜間中学を付設。
(1928 年) **昭和 3 年** 3 月 1 日 夜間中学を閉鎖。
(1933 年) 9 月 2 日 創立 60 周年式典を挙げる。「校友会歌」制定。
(1936 年) 11 月 24 日 秋田市手形字深田に新築された校舎に移転。
(1945 年) 9 月 19 日 進駐軍により校舎を接収されたため、將軍野にある帝國石油鉱手養成所を仮校舎として借用、同月 26 日より授業開始。
(1945 年) 12 月 5 日 進駐軍に接収されていた校舎出火焼失。
(1948 年) 4 月 1 日 秋田県立秋田南高等学校と改称。また夜間課程並びに通信教育課程を併置。
(1948 年) 6 月 1 日 定時制課程を併置。
(1948 年) 6 月 19 日 父母と教師の会 (略称 秋田高校 PTA) 設立。
(1951 年) 4 月 1 日 普通科 10 学級設置。男女共学を実施。夜間課程を定時に併合。
(1953 年) 4 月 1 日 秋田県立秋田高等学校と改称。
(1961 年) 12 月 20 日 新築校舎落成式典を挙げる。(秋田市手形大松沢)
(1964 年) 4 月 1 日 本校定時制を秋田東高等学校として独立し、元秋田大学教育学部校舎を使用。
(1969 年) 4 月 1 日 女子制服制定。
(1971 年) 11 月 12 日 着装自由化決定。
(1973 年) 9 月 1 日 創立 100 周年記念式典を挙げる。「秋高賛歌」制定。
(1983 年) 9 月 1 日 創立 110 周年記念式典を挙げる。故古村先生リレー除幕。
(1983 年) 11 月 硬式野球屋内練習場落成。
(2003 年) 4 月 1 日 普通・理数科 1 学級減、8 学級となる。2 学期制、55
平成 15 年 分授業を実施。
(2013 年) 9 月 1 日 創立 140 周年記念式典

秋高 140 周年によせて

教育の神髄は「師弟」にあり

S40 卒・秋田高校東京同窓会会長 橋本五郎

つい先日出版された平川祐弘氏の『竹山道雄と昭和の時代』（藤原書店）を読んで、真の教育とは何かを考えさせられました。最も核にあるのが師弟の関係ではないかと改めて思わざるを得ませんでした。そこには旧制一高での生徒を慈しむ教師と、先生を心から慕う教え子たちの姿が描かれています。竹山道雄の葬儀で教え子の芳賀徹（東大名譽教授）は弔辞を読みました。「先生方は、私たちを懸命に引きあげ、古きよきものを私たちに伝えて新しい世界に送り出そうと、ほんとうに精魂を傾けて教育と研究に当っておられました」

「汝、何のためにそこにありや」の鈴木健次郎先生を師とする時期に生徒であり得た幸運を心からありがたいと思っています。旧制高校をいたずらに理想化することは慎まなければいけません。秋高の秋高たる所以は何か、東大を目指すことは別に、師弟の独自のありようについて思いをめぐらせる時なにもありません。

祝辞

S47 卒・秋田高等学校校長 高橋 貢

最近学校では、校歌は必ず5番まで歌っている。晩翠作詞の本校の校歌は、悠久の自然から始まり、少年の成長、郷土の偉人への憧憬、学問への意欲と人生への決意、そして桜の季節の友との別離と、まさに一篇の漢詩のようであり、途中で切るわけにはいかない。

4 番の「おのれを修めて世のためつくす」は、140 周年のテーマでもあり、生徒も心に刻んでいる。人間的に魅力のある、使命感に富んだスケールの大きい人間を育てたい。

S34 卒・本部同窓会長 豊口 祐

東京同窓会の皆様には、同窓会に対し、常日頃より多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。

母校が今年創立140周年を迎えることは、喜ばしい限りです。母校にも少子化の波は押し寄せておりますが、文武両道と自主自律の精神のもと、品性の陶冶を理念とする成果にいささかの揺ぎは見られません。東京同窓会の皆様とともに母校の更なる発展を祈念したいと思います。

今後とも同窓会活動にご支援を下さるようよろしくお願い申し上げます。

S22 卒・佐藤 菊夫

『秋中創立70周年』の思い出

昭和18年8月31日、正に太平洋戦争たけなわの時代、当時私は旧制秋田中学2年生だったが、『創立70周年』を迎えた。当時は現在の豪華な式典と違って、質素で控えめではあったが、祝賀記念式は、2500名の全校生が体育館において、県知事を初め、来賓、校長の各祝辞は、我が国でも歴史に輝く誇り高い名門秋田中学校の賛辞に感銘を受け、盛大に挙行された式典が、今もありありと思ひ出されてならない。

式後、各自の教室の机に着いた。担任は満面に笑顔を浮かべ、再度祝賀の挨拶を述べた。そして、あの戦中の食糧難の時代にも拘わらず、全生徒に紅白ののし紙に包まれたお赤飯を、先生は一人ひとりにプレゼントされた。更に先生は「このプレゼントは必ず両親に渡し、少ないけれどもご家族の皆さんでお上がりになるように」と、私達に言い含めるように言った。当時8人家族の我が家では、夕食に一口ずつではあったが、感謝と喜びで家族が声を合わせて「御目出度う！」と云って味わった。

今年は『秋高創立140周年』と聞く。あれから更に70年経ったのかと思うと感無量である。

S22 卒・明石 康

秋高創立140周年を心からお祝ひします。優れた高校として、その特色と水準の高さで知られた秋高は、戦後の混乱期にそこで学んだ私にとつて忘れがたい存在です。これからも、活力ある若者たちが巣立つ学校であってほしいものです。

秋田県東京事務所所長・明石 直樹

秋田高校創立140周年おめでとうございませう。首都圏の様々な方面で御活躍なされているOBの皆様には、「ふるさと秋田」の応援団として引き続き多大なるお力添えをいただきますよう、お願いいたします。（大館鳳鳴出身）

在京秋田県高等学校連合会会長・高橋 実

秋田高校創立140周年を心よりお慶び申し上げます。特に東京同窓会の皆さんには秋高連に對するご厚誼に感謝申し上げます。

今後共、先進的立場で牽引して頂くことを願ひ、益々のご発展を祈念申し上げます。（横手工出身）



《私の秋高、あの時代…。そしてこれから》

ひつこくメッセージ

S25卒・荒井 献

●私は最近、わが国の価値観が「国家は国民のためにある」という憲法の視点から「国家は国家のためにある」という憲法改訂への視点に転換されつつあることに深く憂慮しています。秋田高校がこのような問題をも生徒たちと共に考える「教育の場」になることを願って止みません。

S28卒・加藤日出男

●若い時は活動家として活目されました。昭和27年度の全学学生自治会総連会の会長として…。卒業後も東京都自治会連合会会長及び東京青年の会会長として…。然し、4年前、病に倒れ全快せず、今日の有様にて、欠席いたしております。

ただし、根っここの会だけは今も出席しております。大切な生きるひとつの「場」をいただいで居るだけで幸せです。間もなく84歳です。一日を大切に生きています。

S30卒・横山 樹静

●昭和二十七年入学の秋田駅前校舎は旧練兵場跡の木造二階で、汽

車通の一二年時が高歯下駄で三年時は平下駄で通学し下校時は金座街を通った。また正門横の日米会館の受付女性は美人であった。校舎裏の土手下グラウンドでは、クラス対抗の野球試合や冬の長靴ラクビー等が懐かしい。創立八〇周年記念式典をグラウンドで行ったのは二年の時である。

一学年五百人の十クラスで、高橋一郎（ウマ）校長の揮下に組担任が、一年時は一般社会の和賀（花王セッケン）先生、二年は世界史の大石（ゲホ）先生、三年時は数学の田中（クマ）先生、他に（アドルム）や（ワラジ）等、ほゞ全先生をニックネームで話していた。

S31卒・町田 睿

●精神の揺籃期に名門秋田高校で学ばせてもらったことを誇りに思っています。故郷秋田は、今、少子高齢化と人口減少の最進県として、衰退の一途を辿っています。是非力を貸してください。

S34卒・岩崎 雅典

●秋高34年卒の友人の「自慢」バスケットボール部の現監督中村和雄は男鹿線の汽車通仲

ています。

S32卒・小柳 輝芳

●GO！わが母校（秋田高校！）創立140年とは古いネ。古いことは良いことだと思う。そこでギンギンの高校生を振り返ってみる。へつちよ、げほ、わらじ、くんし、やぎ、ぼつぷうま、おにつこ、ちんちや、たむてつ、あどるむ、じーぶ等々。いずれもなつかしい先生たち。これが一番の思い出。

S33卒・熊谷光太郎

●母校の甲子園出場は、平成11年の夏以来13年の長きに亘って途絶えている。残念で、情けなくて、ただただ口惜しい。過去に於いて、創立周年の年には不思議に出場を勝ち取っている。

S36卒・村山公士

●東京の36年卒同期は、曜日に問わず3月6日に必ず集まることにしています。40〜50人が来ます。その際校歌を歌うのは当然として、時に他の応援歌を歌うこともありま

S39卒・二木 猛

●母校140周年記念の次に、我々39期生は卒業後50年を迎える。来年のあきた国民文化祭に合わせ記念同期会を行う計画。我々

間。卓球ダブルス世界チャンピオンの木村興治し同期（卓球部）。直木賞作家、西木正明は高校、大

学（探検部）を通じての仲間。他にも多々。私は被曝した福島の子供たちのために記録映画で多忙。

S35卒・吹浦 忠正

●北方領土の返還を企画し1968年より100回以上訪露しています。また、東京五輪以来、世界の国旗に関する出版は40点以上。毎日、「タデイの国旗の世界」HPを更新しています。難民を助ける会も頑張っています。

そのエネルギーは全て秋高時代に培ったものです。

S38卒・高田 斉

●38年卒の私は母校の歴史の中の貴重な場面に居合わせた思いがあります。駅前の旧校舎はまさにボロボロ、廊下はきしみ窓はスキ間だらけでした。それでも校舎には愛着がわきましたネ。それが一変して新校舎はコンクリート造り。一部は当時としては新設計でしたが、ギャップにとまどった感がありました。

一言で云えば旧校舎には「伝統」、新校舎は「希望」だったのかもしれない。歴史のページでした。

S39卒・阿部 信泰

●日本国際問題研究所で軍縮問題に取り組んでいます。「核兵器のない世界」が目標で、少なくとも実際に再び核が使われるのを防ぐというのが、目下の課題です。北朝鮮もイランも心配。テロ事件が起こるとビクツとするこの頃です。

S39卒・二木 猛

●母校140周年記念の次に、我々39期生は卒業後50年を迎える。来年のあきた国民文化祭に合わせ記念同期会を行う計画。我々

●秋田がもっと元気が出るようにみんなで盛り立てていきましょう

の次の目標は母校150周年そして卒後60年記念である。それまでみんな、元気で頑張ろう”

S 41 年卒・田口佳孝

●秋田高校の想い出は、何と言っても、鈴木健次郎校長はじめ、高橋先生（国語）、深井先生（英語）、人馬先生（社会）、大場先生（世界史）、牛越先生（生物）、桜井先生（数学）、三船先生（保健体育）、北条先生（数学）など、多くの優秀で教育熱心な先生に恵まれたことに尽きます。

鈴木校長の、卒業生に送ることば、〃汝なんのためにそこにありや？〃は、私の人生にとって、今でも指針です。

入学した際に、先生は、もう一つ、〃全国的視野に立て！〃と何度も話しておられました。最初は、ピンとこなかったのですが、東京に出て、また外資系企業に勤務して、全国的視野を全世界的視野で物事を考えるようになりました。140周年の秋田高校に学んだことを、誇りに思っております。

S 42 卒・清水 光雄

●藤田嗣治のパリを思わす名作がある平野美術館、秋田蘭画、そして千秋公園など、秋田の宝を大いに生かしていただきたい。

S 42 卒・畑山 康幸

●秋田高校創立140周年の記念すべき年に小生も40年勤めたNHKおよび放送研修センターの仕事にも終止符をうちました。ライフワークである朝鮮半島の文化状況について考察を深め、その成果を問う機会があればと考えています。振り返って、小生が朝鮮半島など東アジアに関心を持ったのも秋田高校の時代でした。秋高はその意味でもう一つの私の父母です。

S 43 卒・荒谷 紘毅

●秋田県は27年後65万人になります。皆様が帰郷することが一番のふるさと貢献です。

S 43 卒・進藤 孝生

●「学業とスポーツの両立」を説く鈴木健次郎校長の下、我々わずか17人のラグビー部は児玉市郎監督の指導による「1時間練習」で花園全国大会に出場、準決勝まで勝ち進みました。知力・気力・体力のバランス、チームワークの大切さを教わりました。

S 44 卒・高橋裕次郎

●高校時代の思い出は、良き友、良き師に恵まれたことに尽きます。今でも、秋高での3年間は鮮明に思い出されますし、また、その後の私の原動力となっています。

S 47 卒・鎌田 進

●「明治は遠くなりけり」と言いますが、秋田高校はその明治6年に創立されています。坂本竜馬・高杉晋作等の勤王の志士が活躍した数年後のことです。そう思うといかに長い歴史が刻まれているかを痛感します。150年・200年と後輩たちが築いていくてくれることを期待しています。

S 49 卒・舘山 英昌

●一番思い出されるのは歴史ある名門秋田高校が他の高校に先駆けて行った制服自由化運動でした。体育館に集まっては自由化の意義を説いていた先輩諸氏の姿は鮮明に記憶に残っています。そして勝ち取った自由。自由なればこそ行動責任なども強く意識した時期でした。また在学中に創立100周年を迎え記念行事も行われていたように思いますし、硬式野球チームが甲子園出場も果たし花を添えたようにも記憶しています。歴史に残る時期に高校生活を過ごせたことに感謝です。

S 50 卒・今野 仁

●私が在学中100周年でしたので、もう40年の月日が経過したんだと思うと本当に光陰矢のごとしです。これからは先輩後輩の〃キズナ〃を密にして我が同窓会の存在価値を高めていきたいと思っています。

す。

S 50 卒・渡邊桃伯子（瀬戸智子）

●私たちが在学中に秋田高校創立100周年の行事がありました。作家の丸谷才一氏の講演を秋田県民会館で聞いて、紅白のおまんじゅうをもらって帰宅したことが鮮明に思い出されます。あれから40年。秋田高校の仲間たちとの「絆」は今も変わりません。年に何回か集まっては政治・経済問題から昔話まで何時間も語り合っています。私の「財」です。

●3月に行われた第一回男鹿ジオパーク検定に合格、男鹿の魅力を多くの方に伝えたいという願いに一步步近づきました！夏休みの流星観測は、天文部のOBも来て賑やかでしたね。

S 56 卒・佐々木菜穂子

●社会に出てからも秋高出身とい

S 58 卒・青山 卯女

●広がりがわずかに足らず。コーナー部分が削られた変則五角形のコートでサッカーに明け暮れた3年間。狭い部室でカメラリが大量にふ化し、パニックになったのが、昨日のように思い出されます。あれから27年。私は漫才師になりました。

S 62 卒・齊藤 敬

●皆様のお力添えで参議院議員となり早3年の月日が経ちました。この間、東日本大震災や政権交代など様々な出来事があり対応して参りました。これからも与えられた職責を全うし、ふるさと秋田のために全力で頑張ります。

S 58 年卒・石井浩郎

うと、多くの人に「県立秋田？超名門校だね」と言われてきました。これからも〃天上はるかに〃歴史と看板を誇りに秋高生らしい社会貢献をしていきたいです。



総会資料・議案書（案）

平成 25 年度事業計画案

1. 会報誌「天上はるかに」を同窓会活性化の手段として活用

会員が興味、関心をもてる紙面づくり
年2回発行とする 原則4月末、10月末 2000部以上発送
編集部員を増強して充実化する。

2. ホームページの充実

同窓会本部、他支部、他校同窓会ホームページとのリンクとPR
各年次同期会の報告記事、同窓生の関連するイベントやニュースを載せる。

3. 二大イベントとして

- ① 7月 定期総会 本年は秋田高校創立140周年記念のため「集い」を企画し記念シンポジウムを行う
- ② 1月 賀詞交歓会と 学生と社会人OBとの交流会（就職懇談会）
この試みは他に例をみないユニークなものなので学生、若手会員とともに現役のビジネスマンを積極的に動員する
- ③ 賀詞交歓会とのコラボで社会人会員と学生会員との積極的交流を計る

4. 渉外活動の活性化

秋高連、けやき会、秋田ふるさと応援団、県人会、秋田文化会議等秋高同窓会内外団体と協力して秋田応援・東北応援活動をすすめる。



「第29回国民文化祭・あきた2014」は来年10月4日～11月3日、100万人秋田へのイベント。「文化」の国体、首都圏でのPRや参加活動に取り組んでいきましょう。

2013 年 選出役員（案）

会 長	橋本 五郎	(昭和40年卒)
副 会 長	村山 公士	(昭和36年卒)
副 会 長	二 木 猛	(昭和39年卒)
副 会 長	大野 省治	(昭和42年卒)
副 会 長	武 内 暁	(昭和42年卒)
副 会 長	尾 形 均	(昭和44年卒)
幹 事 長	鎌 田 進	(昭和47年卒)
副幹事長	宮腰 良一	(昭和42年卒)
副幹事長	高橋裕次郎	(昭和44年卒)
副幹事長	今 野 仁	(昭和50年卒)
副幹事長	百 瀬 和	(昭和56年卒)
会計幹事	伊保谷 徹	(昭和59年卒)
会計幹事	佐藤 哲也	(昭和49年卒)
会計監査	横山 樹静	(昭和30年卒)
会計監査	東海林和彦	(昭和45年卒)
特別幹事	高橋 恒雄	(昭和27年卒)
特別幹事	大本香津子	(昭和31年卒)
特別幹事	小柳 輝芳	(昭和32年卒)
特別幹事	熊谷光太郎	(昭和33年卒)

年度別 幹 事

伊藤 清信	昭和37年卒	工藤 亨	昭和58年卒
岩川作丕圖	昭和39年卒	諸橋 公喜	平成元年卒
大森 正高	昭和42年卒	佐々木広人	平成2年卒
大橋 朗	昭和48年卒	土井 英司	平成5年卒
高堂 理	昭和48年卒	柳澤 奉享	平成8年卒
館山 英昌	昭和49年卒	金谷さおり	平成10年卒
鈴木 香	昭和51年卒	草野 剛	平成10年卒
鈴木 久彰	昭和52年卒	碓谷 賢祐	平成11年卒
山岡 長英	昭和52卒卒	浜田 浩二	平成16年卒
大谷 信之	昭和56年卒		

平成 24 年度 事業報告

平成 24 年 6 月 2 日（土）定期総会（ハイアットリージェンシー）

ゲストスピーチ 工藤 進英氏（S41年卒）

「大腸がん これだけ知れば怖くない」

昭和大学医学部教授 69名参加 他校8名参加

7月1日（日）秋高同窓会本部総会（イヤタカ）

ゲストスピーチ 進藤 孝生氏（S43年卒）

7月14日（土）秋田ふるさと応援団「東日本大震災チャリティの集い」

（日本青年館）秋高より9名参加

11月14日（水）秋田市高校連合けやき会（秋田市情報交換会）

秋田市 穂積市長 秋高より11名（アルカディア市ヶ谷）

市長は南高出身ですが、中学の同級生も参加して和気あいあいでした

11月29日（木）在京秋田県高校同窓会連合会（秋高連）総会（アルカディア市ヶ谷）

佐竹敬久秋田県知事 「県政運営の基本」 300名参加 秋高より22名

平成 25 年 1 月 26 日（土）大学生と社会人 OB との交流会

（アルカディア市ヶ谷）学生13名

講師 鈴木 香 氏

OB との活発な意見交換がありました。

1月26日（土）賀詞交換会 59名（アルカディア市ヶ谷）

ゲストスピーチ 齊藤 敬氏（S62年卒）「私は寄席芸人」

秋田ふるさと応援団や秋田文化会議等秋田に関連する催し物や討論といったものが増えつつあり秋田高校東京同窓会からも積極的に出席するようにしています。

また秋田県全体の高校の運動部の東京全国大会を応援していこうという動きが盛んになってきています。

幹事会の実行（幹事の皆さん、一年間に渡って大変ご苦勞様でした。）

平成 24 年：7月13日（金）9月14日（金）11月16日（金）

平成 25 年：1月11日（金）3月9日（金）4月5日（金）

5月11日（土）以下予定 7月12日（金）9月13日（金）11月8日（金）

平成 24 年度決算書

収 支 計 算 書

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

(収入の部)

単位：円

科 目	平成 24 年度決算	決 算 書 摘 要
前年度繰越金	781,220	
年 会 費	1,074,000	
総 会 費	576,000	出席者 124 名 (含、来賓)
賀詞交歓会費	452,000	出席者 126 名 (含、学生)
寄付金収入	129,000	寄付金
雑収入	0	受取利息
合 計	3,012,220	

(支出の部)

単位：円

科 目	平成 24 年度決算	決算書摘要
総 会 費	538,558	ハイアットリージェンシー東京
賀詞交歓会費	423,623	アルカディア市ヶ谷
秋高連合会費	10,000	秋高連
諸 会 費	10,000	けやき会
会 議 費	8,100	幹事会会場費
印 刷 費	436,472	会報誌等作成、封筒・はがき印刷代
広 告 費	50,500	さががけ新聞広告掲載料他
通 信 費	376,689	郵送関係
雑 費	97,145	振込手数料、事務手数料

小 計	1,951,087	
次年度繰越金	1,061,133	
合 計	3,012,220	

貸 借 対 照 表

平成 25 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
普通預金	44,146		
通常貯金	1,016,987	正味財産	1,061,133
合 計	1,061,133		1,061,133

財 産 目 録

平成 25 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目	摘 要	金 額	備 考
普通預金	みずほ／築地	44,146	
通常貯金	ゆうちょ銀行	1,016,987	
合 計		1,061,133	

以上の通り決算報告いたします。

平成 25 年 7 月 6 日

秋田高校東京同窓会会長 橋本 五郎

以上の決算報告について、監査の結果適正であることを認めます。

監事 東海林和彦

平成 25 年度予算書

収 支 予 算 書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

(収入の部)

単位：円

科 目	平成 24 年度決算	平成 25 年度予算	予算書摘要
前年度繰越金	781,220	1,061,133	
年 会 費	1,074,000	1,200,000	会費納入予定者 400 名
総 会 費	576,000	1,500,000	出席予定者 200 名
賀詞交歓会費	452,000	700,000	出席予定者 100 名
寄付金収入	129,000	200,000	寄付金
雑 収 入	0	0	受取利息
合 計	3,012,220	4,661,133	

(支出の部)

単位：円

科 目	平成 24 年度決算	平成 25 年度予算	予算書摘要
総 会 費	538,558	1,300,000	出席予定者 200 名
賀詞交歓会費	423,623	650,000	出席予定者 100 名
秋高連合会費	10,000	50,000	秋高連
諸 会 費	10,000	50,000	けやき会
会 議 費	8,100	20,000	幹事会会場費
印 刷 費	436,472	700,000	会報誌等作成、封筒・はがき印刷代
広 告 費	50,500	70,000	広告掲載料
通 信 費	376,689	400,000	郵送関係費
雑 費	97,145	150,000	振込手数料、事務手数料
小 計	1,951,087	3,390,000	
次年度繰越金	1,061,133	1,271,133	
合 計	3,012,220	4,661,133	



4 月 25 日秋田商業と交流戦

あきこうれん
秋高連だより

4 月 20 日(土) 日本青年館に於いて、役員、運営委員、総会代議員、オブザーバー等、34 同窓会より 100 名が出席のもと、秋高連 25 年度総会・交流会が開催されました。総会では、24 年度活動報告・決算、25 年度事業計画・予算(案)、会則の一部補充が提案され承認されました。引き続き行われた交流会では、得意の余興が披露され、なごやかな内に皆交流を深めることが出来ました。秋田高校からは、鎌田進さん、横山樹静さん、秋山文平さん、武内暁さん、百瀬和さん、大野の 6 名が出席しました。

また 7 月 3 (水)・4 日(木)、

けやき会・秋田
ふるさと応援団だより

秋田市内団体・高校連合の「けやき会」の市政情報交換会は 10 月 24 日、ゴルフ会、登山、浅草寺 P R と交流会活発。

「秋田ふるさと応援団」は、4 年目の垣根を越えて全国大会出場校への応援。

本校の武道館での全国大会個人出場のエールも。8 月 31 日「第 3 回チャリティイベント(日本青年館)」に参加を。(武内)

「ふるさと訪問」として、秋田高校・能代松陽高校への訪問・情報交換と、男鹿観光を実施しますので是非ご参加下さいますようお願いいたします。(お問い合わせ：090-5771-5331・大野)

東京知道会同窓の集い

2 月 23 日(土) 大手町サンケイプラザに於いて水中・水戸二高同窓会(東京)が開催されました。総会・講演会・懇親会の 3 部構成には、ご来賓、会員、幹事当番年次(S59 年卒)等、約 330 人が参加、4 時間を超えて盛大に行われました。秋田高校からは、渋谷潔さん、大野が出席、懇親を深めることが出来ました。

2013年

大学生と社会人の交流会& 新春賀詞交歓会開催

2013年
1月26日

平成25年1月26日（土）、恒例の「大学生と社会人の交流会」が大学生12名および社会人数名の出席で「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。

今年の交流会は、「昨年の交流会に参加し内定を勝ち取った大学4年生が、就活に立ち向かう学生達に熱く語りかける」との趣旨で実施されました。この趣旨での交流会の開催は、本年が初めての試みとなりました。午後1時から就活ポイントの概説の後、青山学院大学総合文化政策学部4年・上垣史彦氏（平成20年卒、富士重工業（株）就職予定）、および早稲田大学法学部4年・佐藤壽氏（平成21年卒、丸紅（株）就職予定）を講師に迎え、大学生の参加者と対話形式で講演が始まりました。両講師からは、約1時間半に渡り「就活に取り組む全般的な構成に始まり、就活中の種々の留意点、エントリーシートで押さえておくべき点や試験・OB訪問・面接攻略の秘訣、自身が内定を勝ち取れたポイント・分岐点等」を中心に熱い思いと励ましを学生さんたちに届けるとともに、学生達の質問・不安に関しても分かり易く応答・ご対応いただきました。様々な苦労・努力の賜物で見事に優良企業に内定を勝ち取った両氏の自らの経験に基づく熱弁と真剣な質疑応答で、集まった学生達にも参考になったと大変好評でした。参加した何人かの学生からは、自分が内定を取得した暁には、来

年の交流会で後輩達に講演したいとの頼もしい意思表明を頂戴し、秋高同窓生の絆の強さを改めて感じました。その後、各業界で活躍中の先輩方が、業種毎に分かれ膝詰め形式で学生達と直接対話する場を、約1時間に設けました。学生達には志望する業種の先輩方から直接お話を伺える貴重な機会となり、先輩方からも自身の就活経験、現職を踏まえた後輩たちへの厳しくも温かい励ましのアドバイスが送られました。最後に橋本五郎会長（昭和40年卒）の挨拶で約3時間に亘った交流会は盛会に終了となりました。交流会に参加した学生達は、引き続き「賀詞交歓会」に移動し、社会人OaおよびOg達との懇親、交流が行われました。学生達は希望の職種につく先輩達とも積極的に交流し、普段、就活本やインターネットでは得られない貴重な生の情報を得ることができ、大盛況に終りました。交流会に参加した学生達が一人でも多く、「先輩、内定を取りました」と同窓会にご連絡いただく日を東京同窓会幹事一同、期待に胸を膨らませ心待ちにしております。



この交流会は、学生達が秋高同窓生の各界で活躍の諸先輩方と面識を得え、関係構築をはかれる、また、就職の悩みを相談できる格好の機会であり、大学の同窓会とは一味違った特徴あるイベントであります。秋高同窓会での絆・縁を大切に、この交流会を毎年継続して開催・運営していきたいと考えております。大学生はもとより社会人の皆様にも是非、ご参加いただきますようお願いいたします。引き続き格段のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京同窓会幹事 交流会担当

S51卒 鈴木 香

賀詞交歓会に参加して

以前何度か秋田高校東京同窓会には参加させて頂いておりました。今回は同級生の有路君の誘いもありまた母校出身の著名な方々の講演を拝聴できる貴重な機会と思い、高校時代の思い出と懐かしさを噛みしめにアルカディア市ヶ谷に向かいました。ゲストスピーカーは寄席芸人の「宮田陽こと齊藤 敬さん」でした。はじめて聴くお名前前で秋田高校OBでは異色で漫才師ということもあり興味津津で聞かさせて頂きました。宮田陽さんの巧みな話術と軽快なテンポで会場は笑いの渦となりました。会場の方も仲間を見守るよう温かく声援を送っていました。浅草演芸ホールや新宿末広亭など都内で活躍とのことですが、その陰には計り知れない苦労がありそれをバネにしているばつておられる姿が眩しく思え自分自身の



励みにもなりました。宮田さんが話しておられた「芸を磨く」ということは、くずれおちる砂山に何度も何度も砂を積み上げるようなものです。」と言っていたことが印象的でした。

懇親会の席では驚きがありました。会場には10数人の現役大学生が社会人との交流会も兼ねて参加していたのですが、その中に同級生の娘さんがいたのです。彼女が小学生の頃会って以来だったので、すっかり大人に変わっていたことと自分たちの子供世代の若い人たちが秋田高校の伝統をしっかりと受け継いでいることに感慨深い思いがしました。懇親会が進むにつれ、はじめはぎこちなかったテーブルの会話がいつの間にか秋田弁が飛び交うようになり、「こは秋田か」と錯覚するほど和やかで落ち着いた雰囲気につつまれ気がついたときは校歌の大合唱でした。

ただ残念だったことは55年卒組が有路君と二人きりだったことと二次会にその同級生の娘さんを誘つてのですがアッサリ断られたことでした。東京におられる55年卒のみなさん次は秋田高校東京同窓会で会いましょう。

S 55 卒 加藤 仁

期待に胸をふくらませて鶯坂を上った日



から約25年が過ぎ、秋田高校に入学したときに応援団の方々に教えていただいた多くの歌も、恥ずかしながら、校歌以外はほとんど忘れてしまっていました。

ところが、その後、社会人になって、転職、職種変更といった人生の転機が訪れるたびに、お教えいただいた多くの歌の中で一曲、曲名は思い出せないのですが、「自らに由りて進まん」というフレーズだけが、なぜか頭の中で繰り返し流れ、「なんとすべえ」と悩む自分の応援歌となっていました。

今回の賀詞交歓会の開催時期は、本格的な独立開業を決定する時期に偶然重なりましたので、また、そのフレーズが頭の中に流れている状態での参加でした。

賀詞交歓会では、多くの先輩や後輩と名刺交換しつつお話しさせていただきました。その際、各界の牽引役として活躍されている方々が、初見でありながら、秋田高校の同窓であるということで、独立開業を決めた私に「がんばれよ」とお言葉をかけてくださり、本当に温かいものをいただいた感じがいたしました。

自分は、独立開業するにあたり、自らは社会という嵐の中を舞う一枚の葉っぱで自分の力だけを頼りにして風の流れを読んで生き延びていかねば、という気持ちでおりましたが、これは誤りでした。自分は社会という樹につながった葉であり、決して独りではないこと、そして、自分が歩いてきた道も自らの一部として、踏み出す次の一歩を決める理由となること、つまり、「自らに由りて進まん」ではなく、やはり「自らに由りて進まん」であることを、今回、

賀詞交歓会に参加させていただき、ことにより、同窓生の皆様に教えていただき、ありがとうございました。ありがとうございました。



がとございました。

最後になりましたが、「ミズカマニヨリ テススマン」という歌詞の歌を知りたい、というところでもない電話の問い合わせに承えて、その歌詞が秋高賛歌の3番にあることを調べていただいた秋田高校事務室の佐藤様、および、この話を聞いて、130周年記念のCDを送ってくださいました秋田高校同窓会事務局長寺田様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

S 60 卒 大窪克之

「東京同窓会のすゝめ」

「なんだか堅苦しかったらどうしよう」「大先輩ばかりで居場所が無さそう」「橋本五郎さんがいるらしい」。一体どんな会なのか分からない、これが秋田高校東京同窓会に参加するまでの私の正直な印象でした。恐らく、参加されたことが無い方はほとんど同じような考えを持っているのではない





えてもらっ
な、地元
トークに花
が咲きまし
た。気が付

そんな困惑したまま、開会の挨拶があり乾杯へ。そこからは不安も何のその、秋田人の血なのか、お酒が入ると会場の雰囲気も一気にアットホームになりました。周囲の先輩方も気を使ってくれてか、こちらに沢山話しかけてくれました。最初のうちはやはり職業の話が多かったですが、秋田の話に話題が変わると、県立児童会館の辺りにスケート場があったという昔話を教

まず、実際に参加してみるとこの確かに半分くらいは想像通り。会場は多くの先輩方が既に着席しており、思った以上に同世代がいなかったことに「うわーどこに座ろう」と若干びびってしまいました。しかも渡された名簿を見ると、就職を控えた大学生を除けば社会人では私が最年少という状況で、適当に空いていたテーブルに座ったものの何をどうしたらいいか周囲をキョロキョロしてしまいました。

でしようか。ここでは初参加の様子を書くことで、同世代の方々は是非とも次回以降参加したくなるよう、当日の様子を綴らせて頂きたいと思います。



れば一次会まで顔を出せていただき、私自身かなり楽しい会となりました。

ももとは今さら同窓会だなんてノスタルジーに浸るのはタサイなあって思っていたわけですが、この会に参加したことで、秋田というのも自分を一つの良いアイデンティティだなど思うように少し自分の価値観に変化がありました。

高校時代は何かにつけて歌うのが億劫だった校歌も、30歳になった今歌ってみるとまるで別の歌のような気分が味わえます。なかなか腰があげられず参加していない皆さん、考えるより行動を！ということ一度飛び込んでみてください！

H13卒 松田 淳

私は、秋高では硬式野球部に所属し、勉強よりも野球を優先した生活を送っていました。一般の秋高生とかけ離れた生活をし、成績も底辺だった人間ですが、恥ずかしながら、この度『学生と社会人OBの交流会』において就職体験談を語らせて頂きました。

拙いプレゼンテーションでしたが、少しでも後輩たちの就職活動の参考になれば幸いです。今回の経験は、自分自身の就職活動を反省する良いきっかけとなり、またプレゼン内容に対して

社会人OBの方からフィードバックも頂けたので、私にとっても得るものが大きい会となりました。

さらに、会の中で橋本五郎会長が就活生に向けた「数ある



職種の中から、特定の職種・企業を選んだ理由を常に念頭に置くことの大切さ」に関するお話は4月から社会人として働く自分にとっても、心に響くものでした。

就職活動の取り組み方に正解はないと思います。今回の会に参加された学生の皆様はもろろんのこと、今年就職に臨むすべての方々が自分らしい就職のやり方で、納得のいく進路に進まれることを心より願っております。最後に、このような場を設けてくださった鈴木様をはじめとする秋田高校東京同窓会の皆様様に心より感謝申し上げます。



H20年卒 上栞史彦

秋田高校創立 140 周年

祝 秋田高校140周年
在秋田県高等学校
同窓会連合会(秋高連)
会長 **高橋 実**
役員一同

★オール秋田へばあ!
えぐどお!みんなして!
★秋田人以外の人へ
秋田を知って、行って、体験を
国民文化祭あきた2014
首都圏行動を
秋田文化会議

S22 年卒
交響讃頌 大いなる秋田...¥3000 (送料込)
童謡連曲 おもちゃのマーチ...¥3000 (送料込)
佐藤 菊夫
サトー音楽研究所
TEL/FAX 03-0704-1190

S28 年卒
若い根っ子の会会長
加藤 日出男

S31 年卒
お客さまを知る、地域に応える
町田 睿
(株)北部銀行 取締役会長

S32 年卒
こやなぎ歯科
小柳 輝芳
〒167-0042 杉並区西荻北 2-9-15-117
http://www.koyanagidental.com
TEL 03-3394-1133

S33 年卒
中野地区秋田県人会会長
熊谷 光太郎

S35 年卒
世界にはばたけ秋高生・OB!
吹浦 忠正

S40 年卒
橋本 五郎
読売新聞特別編集委員
秋高東京同窓会会長

S42 年卒
かゆいところをかいちやいます
清水 光雄
スポーツニッポン新聞創刊65周年

S42 年卒
世界の水問題解決は
グローバル・ウオーター・ジャパンへ
吉村 和就
グローバルウオーター・ジャパン代表
http://gwaterjapan.com/

S43 年卒
ふるさとへの帰郷を待っています
荒谷 紘毅
NPO法人住宅住総合センター

S44 年卒
一人で考え込まないで!
**弁護士法人
高橋裕次郎
法律事務所**
y-takahashi-law@f04.itscom.net

S47 年卒
税務署という漢字を見たら
鎌田へご一報を
鎌田 進
鎌田会計事務所
秋田高校東京同窓会幹事長
sukamata@nifty.com

S50 年卒
簡単フォーム作成・顧客管理
メール配信システム
渡邊 桃伯子
『サポチュー』
www.support-you.jp

S62 年卒
毎月1〜9日浅草東洋館にて
「漫才大行進」絶賛公演中
齊 藤 敬
(社)漫才協会
03-5241-9196

協賛広告

昭和36年	昭和36年	昭和35年	昭和35年	昭和34年	昭和34年	昭和34年	昭和34年	昭和34年	昭和33年	昭和32年	昭和31年	昭和31年	昭和30年	昭和30年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和26年	昭和26年	昭和26年	昭和25年	昭和25年	昭和25年	昭和23年	昭和23年	昭和21年	昭和13年	昭和09年	
成田武之	加藤勝郎	伊藤則昭	川田剛熙	神宮 滋	大山康雄	柳原一夫	船木孝雄	白井邦雄	岩崎雅典	斎藤信雄	戸嶋成忠	町田 睿	大久保隆史	柳原保邦	西山恪朗	佐々木信一	伊東貞夫	大賀啓三	奈良 毅	長門幸雄	戸澤弘明	中崎致和	菊池 巖	荒井 献	菅原寛治	小野寺正周	加藤日出男	佐藤 久	多奈部礼次郎
昭和47年	昭和46年	昭和46年	昭和46年	昭和44年	昭和44年	昭和44年	昭和43年	昭和43年	昭和42年	昭和42年	昭和41年	昭和41年	昭和40年	昭和40年	昭和40年	昭和39年	昭和39年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和38年	昭和37年	昭和37年	昭和36年	
鈴木長彦	八柏龍紀	大門 淳	高橋裕次郎	大川成司	老松秀明	高田 滋	神坂 光	長谷川猛	高橋 誠	大槻幸一郎	矢尾牧夫	畑澤正明	佐々木真美	倉泉信夫	植村管子	山本 均	山方三郎	豊島順男	柴田捷司	船木 茂									
平成13年	平成11年	平成11年	平成09年	平成03年	昭和61年	昭和58年	昭和58年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和49年	昭和48年	昭和48年	昭和48年	昭和48年	昭和48年									
松田 淳	大瀧 洋	碓谷賢祐	神谷 了	松田京平	齊藤 敬	菅原謙二	内山華奈	阿部 充	加藤 仁	小玉正志	遠藤勇人	伊藤万紀子	鈴木 香	平野春夫	山口武秀	伊澤 透	高堂 理	斎藤正範	石川俊明										

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、是非本会報に郵便振込用紙を同封いたしましたので、年会費3,000円のお振込みをお願いいたします。今年度会費納入済みの方に、重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座指定番号は次のとおりです。

00150-0-353596

「秋田高校東京同窓会」

24年度 会費納入者一覧

平成24年10月1日〜平成25年3月31日まで分

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、是非本会報に郵便振込用紙を同封いたしましたので、年会費3,000円のお振込みをお願いいたします。今年度会費納入済みの方に、重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座記号番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

橋本五郎の AKITA 元気トーク



秋高東京同窓会会長

橋本 五郎

妻がくも膜下出血で倒れてから一年余り。言葉を取り戻すため、懸命なりハビリを続ける毎日です。午前中だけでも、できるだけ家にいるように心がけています。家事は妻が一通りできます。私の役割は布団を干すことです。東京では冬でも布団を干すことができます。干しながらつくづく思います。「冬でも布団を干せるなんて何て幸せなことだろう。秋田では布団を干すところか、一日に何回も雪かきをしなければならぬのに」。どこに住むかは自分で選んだことではないのかと言うかもしれませんが、私は不公平だと思うのです。同じ条件でないならば、政治が配慮すべきは当然ではないのかと思うのです。

新幹線はすべて東京が発着です。東京から青森、東京から秋田、東京から新潟……。秋田から新潟に行くのに、直接行くのでは大変です。東京に行つてから新潟に行かざるを得ません。変じやないですか。一極集中が問題だといいますが、これでは一極集中するのが当たり前です。国政選挙における「一票の格差」が大きな政治問題になっています。私には「都会の論理」が幅をきかせているように思えてなりません。東京生まれの東京育ちの政治家が増えているのも気になります。このままでは地方は衰退の一途をたどるでしょう。「地方の再生なくして日本の再生はありえない」ということを基本に据えてこれからの国づくりを考えていかなければならないと痛切に思います。



鈴木健次郎校長離任演説

(昭和四十年(一九六七年)四月)

四年間、諸君とともに、秋高の新しい発展のために努めて参りました。私は、よくその間に中心校ということを示したのであります。中心校とは、何も秋田県を中心に所在するからといふのではないのであります。また、諸君のエリート意識を強調した訳でもないものであります。本校の長い歴史と伝統が、本校に期待する社会的要請を述べたのであります。

今、高等学校の教育が当面してある、学力の向上、あるいはまた、スポーツの振興、あるいはまた、日常生活の正しさ、そういうものに対して、秋高がその中心となつて、その先達となつて、あらゆる問題を解決するために秋高の役割を強調して参つたのであります。

秋高は、古い伝統を持つていたのであります。しかし、伝統が古いとか、歴史が長いとか、あるいは設備がよいとか、そういうことは、必ずしもいい学校の条件ではありません。生徒の一人一人の生徒が、学業の生活に対して、スポーツの生活に対して、また日常生活について、どのような積極的姿勢を持つていけるかによって、いい学校であるかどうかということが決定するのであります。

そういう意味において、私は、常に、諸君に、自覚ある、そしてまた、厳しい毎日毎日の鍛錬の生活を要請して参りました。そういう意味において、私は、いい学校であるために、一人一人の生徒諸君の心構えを強調して参つたのであります。

スポーツと学業の両立ということとは、きわめて困難なことであります。私も、それを十分承知いたしておりますけれども、なお、スポーツと学業の両立を強調したのであります。生徒の一人一人が、この目標に向かって、何ものにもくじけない信念を持つて、何ものにもくじけない意志を持つて、何物かを創造する力を、生徒諸君に期待したのであります。

私は、これからの諸君に望みたいことは、今の民主主義というものは、ともすれば外部の権力に対する抵抗として考えられなければならないけれども、本当の民主主義とは、自らの内心にある邪念・欲望に打ち克つていなければならないことです。その自らの内心にある邪念・欲望に打ち克つてはじめて、本当の意味の民主主義というものが確立されるのであります。そういう意味において、これから、生徒諸君は、一人一人、自らの邪念・欲望に克つて、皆と協力のできる学園を作つていただきたいと思つたのであります。

私は秋高を愛する、それが故にまた再びここに、諸君に入学式に際して述べた同じ言葉を繰り返して、お別れの言葉にいたしました。

「汝何の為に其処に在り也」この言葉にはつきり断言の出来る生徒一人一人の毎日の生活であつて欲しいのであります。

私は秋高を愛する、それ故に私は、諸君の一人一人の努力によつて、秋高が今後益々発展することを、心から祈願するものであります。

秋田本部同窓会事務局日誌

東京同窓会の皆様、お元気でしょうか。母校は今年創立140周年を迎えます。9月1日午前10時からの記念式典(於秋田県民会館)では、東京同窓会会長橋本五郎様(昭和40卒)から「真のリーダーとはいかにあるべきか」と題してのご講演をいただくことになっています。前東大総長佐々木毅様(昭和36卒)からは第20回の企画展示を校地内同窓会館「羽城館」で、秋高祭当日(6月29・30日)から創立記念月9月末まで行つていただく予定です。二つとも同窓の皆様には広く門戸を開いてお待ちしておりますので、ぜひお出下さい。また、秋高連(東京の秋田県高校同窓会連合会)の大野省治会長代行様(昭和42卒)からは七月に数十人が秋高を訪問するとの連絡もいただいております。まさに秋田県・秋田高校は古里を離れた方々の厚いご支援とご協力の絆に支えられていると感じております。

母校支援を眼目とする募金は既に二千万円近くいただいておりますが、まだ目標額の三分の二弱です。五月上旬にお届けする「同窓会だより」が最後の機会になるかと思いますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。(S41卒 寺田和夫 本部事務局長)

幹事長だより

今年是我が秋田高校の140周年に当たります。われら同窓生の老いも若きもこの140年という数字に驚きを禁じえません。長きにわたり諸先輩たちが歩んできた道を我らも続きそして後輩たちも黙々と突き進むことによつて140年という歴史が作られていることを重く感じます。高校で過ごす時間は3年間という、長い人の一生から見れば短い時間です。しかしその3年間にこそ一生を生きぬく力を得るのです。子供から大人への転換期でもあり青春という名のエネルギーに満ちた時期でもあります。従つて年老いても決して忘れることのない記憶となつて残るのです。「もう一度あの3年間に戻つてみたい」などと叶わぬ夢を見たりもするのです。

今年の東京同窓会は例年と違った総会にします。幹事一同張り切っています。一人でも多くの同窓生にお集まり頂きたいお願い申し上げます。(S47卒 幹事長 鎌田 進)